

メタセコイア

2023.10
Vol.61

- もくじ -

1 副病院長就任のご挨拶

2 糖尿病代謝内科紹介

3 ・脳神経内科の受診方法
・糖尿病代謝内科の受診方法

4 5 ニュースレター
外来化学療法室看護の充実に向けて

編集・発行 / 東北医科薬科大学病院 患者支援・医療連携センター

〒983-8512 仙台市宮城野区福室1丁目12番1号 TEL 022-259-1221(代表)
TEL 022-388-9593(医療連携室直通) FAX 0120-25-9121(医療連携室直通)
Eメール renkei@hosp.tohoku-mpu.ac.jp

ホームページ <https://www.hosp.tohoku-mpu.ac.jp>



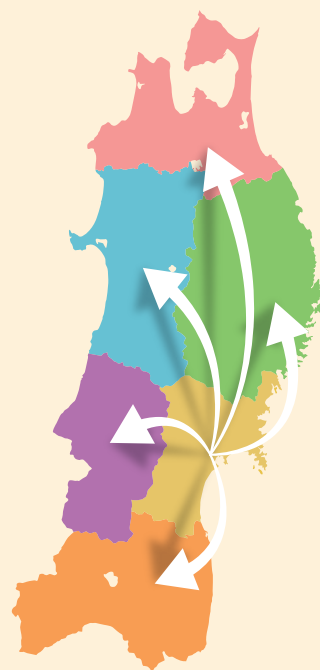
脳神経内科 科長
中島 一郎

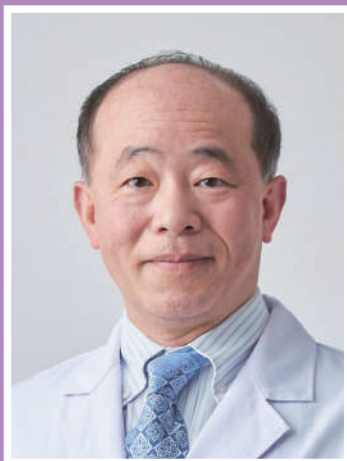
副病院長就任のご挨拶

本年4月1日付けで副病院長を拝命しました脳神経内科の中島一郎と申します。僣越ながら、副病院長就任にあたり、ご挨拶申し上げます。専門は脳神経内科で、中でも免疫性神経疾患の研究と診療に長年従事して参りました。現在は一般社団法人日本神経免疫学会の理事長を兼務しており、希少疾患を含む神経難病の克服に向けて活動しており、中でも免疫性神経疾患の啓発活動、専門医の育成、研究促進に日々勤しんでおります。また、厚生労働省の難治性疾患等政策研究事業「神経免疫疾患領域における難病の医療水準と患者のQOL向上に資する研究」を分担させていただいております。数年前に当教室が事務局となりMOG抗体関連疾患全国疫学調査を実施いたしました。MOG抗体は従来急性散在性脳脊髄炎などと診断されていた中枢神経炎症性脱髄疾患の一部に特異的に認められる病原性のある自己抗体で、MOG抗体関連疾患は新たな疾患概念として確立しつつあります。本院ではこれらの中枢神経疾患の新規薬剤の開発にも関わっており、院内での自己抗体の測定などを介して早期診断、新薬を用いた早期治療も実践しています。さらには、2023年9月に発行された「多発性硬化症/視神経脊髄炎スペクトラム障害診療ガイドライン」で作成委員を務め、この分野におけるオピニオンリーダー的な役割も果たしております。

東北医科薬科大学において修学資金医師支援センターの副センター長を兼任しております。本学の卒業生が東北地方に根差して一人前の医師になれるように支援することで東北の医療全体の向上につながることを信じて職務に励んでおります。現在2期生までが卒業し、来年度からは1期生の多くが専攻医プログラムに参加し、専門医取得を目指します。専攻医には地域医療への貢献も求められており、専門医取得後も宮城県をはじめとする東北各県に根付いてほしいと願っています。

東北医科薬科大学病院の副院長としては、病床管理、防災対策、省エネルギー対策などを担当しています。病床管理は福室キャンパスの本院ベッド約600床の適切な配分を検討し、稼働率を下げすぎることなく、収益が上がるような配置転換を状況に応じて実施していますが、地域のニーズにも十分に配慮していく所存です。私自身、前身の東北厚生年金病院での勤務歴があり、当時からの地域に根差した、近隣住民に優しい病院作りをこれからも心がけたいと思っています。登録医の先生方におかれましては引き続きご支援賜りたくお願い申し上げます。





科長
澤田 正二郎

糖尿病代謝内科

2022年4月から診療科長を拝命してまず澤田正二郎と申し上げます。糖尿病代謝内科は6名の常勤医師と内科専攻医、研修医で診療を行っています。対象疾患は糖尿病、肥満症、脂質異常症、高尿酸血症などの代謝疾患です。外来患者数は年間14,958名(のべ数)、入院患者数は209名(実数)と糖尿病外来としては地域最大級であり、患者様を御紹介して頂いてます登録医の先生方に深く感謝申し上げます。

診療内容

登録医の先生方から御紹介を受けました患者さんを治療後、お戻りする「病診連携」を行っています。とくに、外来では血糖コントロールに難渋する糖尿病患者さんに対する「糖尿病教育入院」に力を入れています。多くの糖尿病患者さんは、教育入院をきっかけに、自己療養(セルフケア)能力を身に付け、将来の健康に大きな恩恵を与えます。われわれの糖尿病治療チームは、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、検査技師などの医療者が糖尿病療養指導(患者教育)にあたり、血糖コントロールが上手くいかない理由を患者さんと一緒に見つけ、共に解決していきます(多職種介入)。また、糖尿病合併症のスクリーニングも積極的に行い、重大な合併症に進展しないよう早期発見に留意した診療を行っています。

今回、外来では最良の血糖コントロールにもう一步届かない患者さんや糖尿病合併症の検査を短期間で調べてみたい患者さん向けの、短期間の糖尿病検査入院(3~5日程度)を御紹介します(同封のリーフレット)。入院期間中、糖尿病食の実食体験や糖尿病教室に参加することで、自己療養(セルフケア)能力が向上し、患者さんの将来の健康に貢献できます。また、定期的な糖尿病合併症スクリーニング(網膜症、腎症、神経障害、脳心血管疾患など)の場としても御活用ください。

従来から行っている高血糖患者のためのブドウ糖毒性を解除し膵β細胞機能を回復させる糖尿病治療入院(2~3週間)や、糖尿病緊急症(糖尿病性ケトアシドーシス、高浸透高血糖状態、低血糖)にも随時、対応させて頂いております。

得意とする診療

- インスリンポンプ療法(CSII)や持続グルコース測定(CGM)などを積極的に導入しています。
- 難治性の脂質異常症の診断治療、とくに2022年4月からは家族性高コレステロール血症や原発性高カイロミクロン血症などの遺伝子解析検査が保険収載されました。
- 高度肥満症の診断・治療、とくに外来では減量できない患者の減量入院を行っています。さらに、適応があり、かつ患者さんの希望があれば、代謝改善手術が実施可能な施設に紹介します。

われわれは登録医の先生方との地域連携を通じて、代謝疾患に対する地域医療に貢献する所存ですので、今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



脳神経内科の受診方法

脳神経内科は受付時間のご来院であれば、当日受診が可能な診療科です。

受付時間 平日8:30～11:30

当日受診で、**緊急性の高い**場合は、脳神経内科外来へご連絡ください。

※多発性硬化症外来をご希望の場合は、予約をお願いします。

■予約希望の場合

予約
方法

STEP 1

- 診療予約申込書をご記入のうえFAX送信してください。
- FAX 0120-25-9121 (連携室直通)

STEP 2

- 連携室にて診療予約申込書を受け取り次第、予約調整致します。
- 予約申込時に紹介状のご準備が難しい場合は「疾患・症状」の欄に紹介内容を記載してください。

STEP 3

- FAX到着後、15分程度で予約票を返信致しますので、患者さんにお渡しください。

予約がおすすめ



この日に
受診したいな…



何だか様子が
おかしいわ…

午前中なら
当日受診
が可能です

多発性硬化症外来【完全予約制】

対象の方

「多発性硬化症」または「視神経脊髄炎」の診断を受け、治療方針が定まっていない新患の方、または医療機関のご紹介状をお持ちの新患の方です。

診療日

毎週月曜 14:00, 15:00

受診方法

医療機関よりFAXにて予約申込み

糖尿病代謝内科の受診方法

糖尿病代謝内科を初めて受診される場合は予約制となります。

緊急性が高く、当日受診を希望される場合は、糖尿病代謝内科外来へ直接お電話ください。

予約
方法

STEP 1

- 診療予約申込書をご記入のうえFAX送信してください。
- FAX0120-25-9121(連携室直通)

STEP 2

- 連携室にて診療予約申込書を受け取り次第、予約調整致します。

STEP 3

- FAX到着後15分程度で予約票を返信致しますので、患者さんにお渡しください。

予約申し込みは、医療機関よりFAXでお願い致します。



外来化学療法センター NEWS LETTER

外来化学療法センターの近況報告 当院では、がんの薬物療法やがん以外の疾患に対する生物学的製剤療法を安全かつ快適に実施するために、外来化学療法センターが設置されております。本誌面においては外来化学療法センターの最近の話題をお知らせいたします。

外来化学療法室看護の充実に向けて



外来化学療法室看護師

がん薬物療法の治療は外来が中心になっており、当院においても外来化学療法件数は増加しています。この需要に対応すべく外来化学療法室を、2022年11月より15床から19床へ増床しました。電動ベッド7床、リクライニングチェア12床で運用しています。

患者さんは、外来化学療法室での治療だけでなく、内服抗がん剤やディスプレイの容器等を活用した在宅化学療法も行われています。そのため治療期間のほとんどを自宅で生活しながら治療を受けることとなります。また、免疫チェックポイント阻害薬などの新たな薬剤やレジメンの開発が進み、生存期間の延長という恩恵を患者さんが受ける一方で、治療期間が長期間に及ぶことでのがん薬物療法の副作用の影響も長期化してい

ることも事実です。たとえば、脱毛や皮膚の色素沈着、爪の変形などの外見変化、手足の痺れ、味覚障害などがあります。患者さんが治療の継続・完遂を目指しながらQOLを向上・維持できるような生活や生き方を目標とするときに、

これらの副作用マネジメントは欠かせません。外来化学療法室看護師は、それらの対処法を一緒に考え、セルフケア支援を行います。そして安全・安心に治療が受けられるよう、快適な環境の提供を目指し支援を行っています。

外来化学療法室看護の充実のために、看護師を今年5月より7名から8名に増員しております。そのうちがん化学療法看護認定看護師1名、がん性疼痛看護認定看護師1名の、がん関連の認定看護師2名で、腫瘍内科医師の診察に同席し、診療報酬「がん患者指導管理料イ」を算定しています。

「がん患者指導管理料イ」は、患者と家族が納得して治療にのぞめるために、医師と看護師が協働で診断や治療方針について説明し支援するものです。「がん患者指導

管理料イ」算定数は、昨年度は年間で6件でしたが、今年度は月に10～20件算定しています。

化学療法を含めた治療の選択、副作用や身体症状、療養上の心配事、仕事や家族のことなど様々な心理社会的な気がかりを患者さんやご家族は抱えています。また、残されたレジメンが少ない時、抗がん剤の効果がなく化学療法を中止、緩和ケアへの治療の切り替えが必要になる場面もあります。診療報酬に関わらず、できるだけ同席させていただき、面談をおこないます。がん治療や、今後の人生をどのように過ごすかを一緒に考えながら支援する等アドバンス・ケア・プランニング(ACP)の促進にもつなげていきたいと考えています。介入して得られた情報を医師、看護師、薬剤師、管理栄養士や相談支援センターなど多職種で共有し、チームで患者さん、ご家族を支えられるよう取り組んでいます。





がん関連トピックス

「ゲノム医療法」が成立

2023年6月9日、遺伝情報に基づいた医療の促進や、遺伝情報による差別が生じないようにすることを初めて定めた「ゲノム医療法」が国会で成立しました。

日本医学会と日本医師会は2022年4月、遺伝情報による社会的な不利益や差別を防ぐ法律の整備を国に求める共同声明を発表し、患者団体なども同様の声明を出しました。こうした動きを受けて2022年10月与野党の超党派でつくる「適切な遺伝医療を進めるための社会的環境の整備を目指す議員連盟」は、議員立法案の概要をまとめました。法案は2023年5月31日に衆院本会議に提出され、6月9日に参院本会議で可決、スピード成立しました。

米国では遺伝子情報差別禁止法(GINA)が2008年5月に成立し、遺伝情報に基づく就職や保険加入に際しての差別を禁止しています。カナダにもGINAに似た法律があります。また、フランスやドイツのほか、韓国でも遺伝子検査などに関する法律で差別を禁止しています。ゲノム情報の医療応用をめぐる日本の法整備・規制は欧米などと比べて大きく出遅れまし

た。しかし、日本でも遺伝情報に基づく差別が法律で規制されることが実現したのは、大きな一歩であり、今後、がんをはじめとするゲノム医療の推進に大きく寄与するものと考えられます。

コロナ禍でがん検診受診率低下

厚生労働省は、2023年10月に「がん検診受診率向上に向けた集中キャンペーン」を行っています。また、第4期がん対策推進基本計画にはがん検診受診率を60%に引き上げることが盛り込まれています。日本対がん協会はがん検診受診者数が新型コロナウイルス感染症流行前の2019年よりも2020年は27.4%低下し、2021年には回復しているも2019年に比べて10.3%低下していると報告しています。厚生労働省はがん検診受診や治療を控えることによる、悪影響が出ているとして、2023年より中長期的な実態調査を行うことを発表しています。新型コロナウイルス感染症は5類になったこともあり、がん検診を中断していた方に対して、再開することを推奨するの必要なことと考えます。(文責：下平)

